ファシリティーうさぎ『エコロじい』

ファシリティーうさぎ『エコロじい』とは、ファシリティーというお茶が大好きな、
ECOを愛するウサギの老紳士です。
NTTファシリティーズのキャラクターとして
テレビCMなどで当社のECOをご案内しています。

■お問い合わせ先

株式会社NTTファシリティーズ
CSR推進室

〒108-0023
東京都港区芝浦3-4-1 グランパークタワー

Tel：(03)5444-5187　Fax：(03)5444-5610

E メール: xa05999@ntt-f.co.jp

URL: http://www.ntt-f.co.jp/csr/

ハイライト版

NTTファシリティーズグループ

CSR報告書2016

より良い社会へ、価値を創造する
より良い未来へ、責任を果たし続ける

Smart & Safety

NTTファシリティーズ

私たちは、Smart & Safetyで持続可能な社会の実現に貢献し続けます。

私たちNTT ファシリティーズグループは、人権の尊重、雇用と職場における差別の撤廃、そして腐敗防止への取り組みを経営の基盤とし、ICT・エネルギー・建築の技術を融合した環境ソリューションで、「Smart & Safety」な街づくりに貢献し続けます。

「Smart & Safety」の主なソリューション

MEGA SOLAR
メガソーラー
（太陽光発電システム構築ソリューション）

GreenITy Building
GreenITy Building®
（環境配慮型建築ソリューション）

「100年BCP」
100年BCP®
（事業継続計画トータルソリューション）

Fデータセンター
Fデータセンター®
（データセンター構築トータルソリューション）

高機能ビルマネジメント
高機能ビルマネジメント

編集方針

本報告書は、2015年度の様々なCSRに関する取り組みと実績を報告し、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様と、より緊密なコミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。

掲載内容は、2006年度に制定（2011年6月一部改定）された「NTTグループCSR憲章」で定めた4つのCSRテーマに基づき、地球と人類が調和する持続可能で豊かな社会の実現に向けたNTTファシリティーズの事業と、環境保護や社会的課題解決への取り組みなど、ステークホルダーの皆様にとって重要と思われる情報を選定し報告しています。

■ 報告対象期間
2015年4月1日～2016年3月31日
（一部、2016年4月1日以降の活動と見通しを含んでいます。）
■ 報告組織の範囲
NTTファシリティーズ、7地域会社、及びNTTファシリティーズが出資する8グループ会社としています。

■ 発行月
2017年1月（次回：2017年11月予定）
■ 参照ガイドライン
・GRI（Global Reporting Initiative）ガイドライン（第4版）
・環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」
■ 記述について
・本報告書に掲載した内容は、過去の事実だけではなく、発行時点における計画や将来の見通しを含んでいます。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づく仮定や判断も含んでおり、将来の活動内容や結果が掲載内容と異なる可能性があることをご了承ください。
・本報告書発行後、掲載内容に誤りがあることが認められた場合は、Webサイトにて報告し、正誤表を掲載します。
・本報告書において、「当グループ」とは、株式会社 NTTファシリティーズ及び NTTファシリティーズ地域会社7社、8グループ会社を示しています。
・本報告書における「社員」とは、一部を除き、契約社員、人材派遣、他を含みます。

Contents

社会と私たち
編集方針……1
財務・非財務パフォーマンス……2
会社概要……2
社会に浸透し、支える……3
ビジョンをもち挑戦する……5
より良い未来へ責任を果たし続ける……6
社長メッセージ……7

Highlight2015
人と社会のコミュニケーション……9
人と地球のコミュニケーション……11
安心・安全なコミュニケーション……15
チームNTTのコミュニケーション……17

CSR経営の基盤
コーポレート・ガバナンス、CSR推進体制……19
企業倫理・人権啓発・コンプライアンス……20
海外への拡大……21

第三者意見
第三者意見……22

財務・非財務パフォーマンス

財務パフォーマンスはNTTファシリティーズ、及び地域会社7社の合計、
非財務パフォーマンスはNTTファシリティーズグループの合計（CO_2排出量はエネット社を除く）です

会社概要

■ 商号 株式会社NTTファシリティーズ
（NTT FACILITIES, INC.）
■ 本社所在地 東京都港区芝浦3-4-1グランパークタワー
■ 営業開始日 1992年（平成4年）12月1日
■ 資本金 124億円
■ 従業員数 5,500名
（2016年3月31日現在・NTTファシリティーズグループ）

■ 業務内容
建築物・電力設備のコンサルティング、企画、設計、保守、維持管理など
■ 地域会社（2016年4月1日現在）
株式会社NTTファシリティーズ中央・北海道・東北・東海・関西・中国・九州

■ グループ会社（2016年4月1日現在）
株式会社NTTファシリティーズFMアシスト
株式会社NTTファシリティーズ総合研究所
NTTジーピー・エコ株式会社
NTTインテリジェント企画開発株式会社
NTT FACILITIES USA, INC.
Unitrio Technology Limited
Pro-Matrix
Electronic Environments Corporation
株式会社エネット

社会に浸透し、支える

私たちNTT ファシリティーズグループは、「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」という理念のもと、事業活動を通じてこれらの課題に取り組み、社会に貢献し続けています。

ビル・施設・オフィス

省エネルギーや自然災害への対策、ICTの活用など、建物に求められる品質・機能は時代とともに変化しています。私たちは、企画・設計から工事・維持管理まで、建物のライフサイクル全てをカバーするワンストップサービスを提供します。

データセンター

クラウドの普及などをうけ、今やデータセンターは社会の重要インフラです。私たちは、日本の通信を支えてきた技術力と建築・エネルギー技術を組み合わせ、コスト節減や老朽化対策、拡張性への対応といった多角的な視点からデータセンターの価値を最大化します。

ファシリティマネジメント

土地や建物、設備といった業務用資産を最適な状態で保有することは、重要な経営課題の1つです。私たちは、最適なファシリティのあり方をめざし、コンサルティングから監視・オペレーションまで多様なサービスを提供します。

マンション

私たちは、オフィスビルや各種施設における多様なファシリティサービスのノウハウ・技術を応用し、省エネ・節電のサポートをはじめ、安心・安全で利便性の高いマンション実現に向けた各種サービスを提供します。

その他の分野

私たちは、ICT・エネルギー・建築の技術を融合・活用し、幅広い事業分野を手がけてきました。次世代に寄与する環境・教育分野や 6次産業として成長が期待されるアグリビジネスなど、総合力を活用してお客様の多様なニーズにお応えします。

太陽光発電

近年、自然エネルギーへの関心はますます高まっています。私たちは、大規模発電システムや停電対応型などの、多様な太陽光発電の製品・サービスを提供し、自然災害などのリスクに強く、環境にもやさしいエネルギー源を追求していきます。

In Focus ～もっと知りたい方へ～

Webサイトのご案内

NTT ファシリティーズの多彩な製品・サービスについて、より詳しくご紹介しています。

最新の企業情報　http://www.ntt-f.co.jp/

カテゴリー別での事例紹介　http://www.ntt-f.co.jp/service/

主な製品・サービスハイライト

揺れモニ

「揺れモニ」は震災直後に発生する、建物継続使用に関する不安の声や、建物安全度の調査に費やす費用と時間の解消のニーズに応えた、建物安全度判定サポートシステムです。

地震後のビルの安全性を高精度に解析し、速やかにわかりやすく「見える化」し、適切な避難対応をサポートします。BCPの観点からも重要な非構造部材（外壁や天井など）の被害予測機能や、緊急地震速報を活用した迅速な防災活動・避難誘導をサポートする緊急地震速報表示機能など、さらなる機能を充実させて進化しています。

Webサイト: http://www.ntt-f.co.jp/service/building/yuremoni/

SmartStream®-X

「SmartStream®-X」は空調の複雑な稼働を効率的に管理して省エネする水冷式空調の統合・自律制御システムです。既存の空調設備はそのままに、水冷式空調の4要素である<冷却水ポンプ><熱源機＋1次送水ポンプ><2次送水ポンプ><空調機ファン>を状態監視し、省エネ制御命令します。しかも、省エネ効果が高い空調設備から導入すれば、最小限のコストで省エネ効果を実感できます。また4つの自律制御システムを全て連携させれば、省エネ効果は最大40%*削減になります。

*当社試算による

Webサイト: http://www.ntt-f.co.jp/service/building/ss/

品川シーズンテラス

スマート時代のエコロジカル・インフラの一翼を担うだけでなく、新たな国際ビジネスの拠点にふさわしい、「環境性能とBCPの両立」という時代の要請に応え得る先進的なオフィスビルの実現をめざした「品川シーズンテラス」が、2015年5月28日にグランドオープンしました。「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靭化大賞）2016（一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会主催）」最優秀レジリエンス賞（エネルギー部門）を受賞するなど、外部からも高い評価をいただいています。

Webサイト: http://www.ntt-f.co.jp/architect/building/shinagawa-st.html

「平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」受賞

NTTファシリティーズ新大橋ビルは、様々な環境技術を導入した実証実験型の研究開発オフィスです。「自らが開発したものを自らが体験する」ことで技術を継続的に研鑽するとともに、普及促進に向けた課題にも取り組み地球温暖化防止に貢献しています。

新大橋ビルにおける取り組みはICTを活用した環境配慮型オフィスの構築及び継続的な技術開発の取り組みで「平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞しました。

Webサイト: http://www.ntt-f.co.jp/profile/topics/2016/161125.html

ビジョンをもち挑戦する

私たちは、社員全員が夢と志を持って目標に向かってチャレンジするとともに企業として大きく羽ばたくために、NTTファシリティーズグループの存在意義は何か、真の強みはどこにあるのか、社会にどのように貢献していくかについて議論を重ね、企業ビジョンに“使命”を追加するとともに行動指針を再整理しました。使命は「私たちは何のために存在しているのか」であり、行動指針は「私たちの考え方や概念の基点・基準」です。
私たちは企業ビジョンを全員の指針とし、最先端で高品質な製品・サービスを提供し続けます。

企業ビジョン

使命

Smart & Safety で持続可能な社会の実現に貢献し続ける

限りあるエネルギーを効率的に無駄なく使い、自然災害などのリスクに対応できる街づくり。私たちは持続可能な社会に貢献し続けます。

めざす姿

地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる

お客様の期待を超えた価値を提供する。それが『統合、ファシリティサービス』です。この『最大の強み』で、お客様から最も信頼されるパートナーをめざします。

4つの提供価値

1 実証力

NTTで実績を積んだ、安心で信頼性の高いサービスを提供する

「通信を守りぬく」という、現場で培われた信頼性の高いサービスをお客様への安心として提供します。

2 総合力

ファシリティに関する幅広いサービスをワンストップで提供する

IT・エネルギー・建築の領域を中心に、企画・設計から工事・維持管理まで、お客様のご要望を一手に担うことのできる幅広いサービスを提供します。

3 実現力

蓄積技術と先端技術を組合せ、魅力的なサービスを提供する

現場で蓄積した実践的な技術と研究開発による革新的な技術や世の中の最新技術をお客様のご要望に合わせて組合せ、魅力あるサービスとして具現化します。

4 追求力

プロの視点で、お客様に真に必要とされるサービスを提供する

お客様の声に真摯に耳を傾け、そのニーズを深く理解して必要なソリューションを検討し、本当に求められるサービスを追求します。

行動指針

「公明正大」、「誠心誠意」、「三現主義」この3 つの行動を基本に価値創造する

- 現状にとわられず**チャレンジ**します
- 立場を超え**コミュニケーション**を図りチームに貢献します
- 先を読み、**スピード**を意識して行動します
- 責任感を持って**主体的**に完遂します

企業ビジョン浸透に向け

企業ビジョンの確実な浸透をめざし、会社幹部が全国の支店を訪問するキャラバンを4～5月にかけて実施したほか、全管理者を対象に「管理者意識・行動改革ワークショップ」を9～10月に実施しています。

より良い未来へ責任を果たし続ける

ビジョンの実践にあたり、持続可能な社会づくりに貢献し続ける「サステナビリティ経営」を重視しています。その実践のため、継続的なCSR 活動の「マテリアルなCSRテーマ」を設定しています。

4つの「マテリアルなCSRテーマ」

Theme 01 人と社会のコミュニケーション

IoT（社会の様々な機器のネット連携）の進化と、社会のスマート化

重視している社会の変化

私たちは、社会の持続的発展のため、革新的ICTを開発・提供することで、より豊かで便利なコミュニケーション環境を実現し、国内外の様々な社会的課題の解決に貢献します。

Theme 02 人と地球のコミュニケーション

地球温暖化の進行とエネルギー資源の枯渇

重視している社会の変化

私たちは、グループ事業全体にわたって環境負荷を低減し、ICTの利活用による社会全体の環境負荷低減に取り組み、様々な地球規模での環境問題の解決に努めます。

Theme 03 安心・安全なコミュニケーション

自然災害の頻発・激甚化

重視している社会の変化

私たちは、社会を支え生活を守る重要なインフラを提供する企業グループとして、社会的・倫理的な課題の克服に真摯に取り組み、情報セキュリティの確保や災害・サイバー攻撃にも強い安心・安全なコミュニケーション環境を提供します。

Theme 04 チームNTTのコミュニケーション

多様な人が活躍できる環境づくり

重視している社会の変化

私たちは、“チームNTT”として、様々なパートナーの皆様とともに高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、ダイバーシティを尊重した働きやすい職場環境の整備や個の成長に努め、豊かな地域社会づくりに貢献します。

社長メッセージ

より良い社会へ、価値を創造する

発刊によせて

2016年6月に社長へと就任し、初となるCSR報告書を皆様にお届けできることを嬉しく思います。私たちNTTファシリティーズグループは筒井前社長のもと、2015年度も、持続可能な社会づくりへと事業の特長を活かしたCSR活動を展開し、多彩な成果を収めることができました。「NTTグループCSR憲章」において重点的に取組むとした、4つの「CSRテーマ」に即しご報告します。事業にこめた社会に対する私たちの思いを、当報告書から実感頂ければ幸いです。

先進のファシリティを通じ、社会を支え続ける

持続可能な社会の実現に向け、国際社会は行動を加速しており、企業に対する期待も更なる高まりを見せています。例えば国連では2015年9月、社会課題の解決に向けた「持続可能な開発目標（SDGs）」17項目が定められ、国内外の企業でも多面的なアクションが開始しています。また2016年5月に開催された伊勢志摩サミットでは、経済・外交に加え、気候変動・エネルギー対策を大きなテーマとする環境保護や女性の活躍促進、インフラ投資といったテーマが議論され、その取組みを官民で推進する意志が表明されました。

私たちはかねてより、ファシリティを「社会を支える施設や設備全て」と位置づけ、皆様の日常を様々な場所で支え続ける事業を展開してきましたが、上記の潮流も踏まえつつ、さらに取組みを加速しています。当報告書でご紹介しているように、安心・安全な建物設計はもちろん、効率的で信頼性の高い太陽光発電システムの構築、データセンターやオフィスビルの省エネルギー化など、社会インフラのICT化ならびに低炭素・低負荷化を見据え、時代をリードする先進的なファシリティサービスを、2015年度も数多く実現しました。これからも、「Smart & Safety」を合言葉に、より良い未来に貢献する価値を創造し続けます。

企業ビジョンを共有し、グループ全員で使命感を共有する

より良い未来に貢献するため、そして、社会に新たな価値を創造するため、私たちは、一人ひとりが使命感を持ち行動する必要があります。このような問題意識に立ち、私たちは、2016年4月に、企業ビジョンを再構築しました。今回の改定では、まず企業ビジョンに「使命」を追加することで、私たちが重んじる社会への貢献の在り方を明示しました。同時に、行動指針に「公明正大」「誠心誠意」「三現主義」を追加し、誠実かつ倫理的な行動の重要性を共有するとともに、会社の内外では「明るく、楽しく、元気よく！」「粘り強く、あきらめず」をスローガンにコミュニケーションの輪を広げ社会貢献できる会社をめざしています。

特に人権問題は、「あらゆる差別を許さない企業体質の確立」をめざし、その大切さを全社員に徹底しつつ、啓発活動を推進します。

新・企業ビジョンの確実な浸透に向け、グループ横断のワークショップを各地で開始しており、既に様々な事業改善へと結実しつつあります。引き続き、お客様ひいては社会から最も信頼されるパートナーとなるべく、グループ全員でCSR経営の基盤を強化してゆきます。

グローバルな視野で、挑戦する

2015年度は、事業のグローバル化の観点でも意義ある一年となりました。グローバルシームレス化する社会を見据え、かねてより、スマートグリッドの実証サイトや低炭素型データセンターといった先進的ファシリティの構築を世界各地で積極的に模索してきた私たちですが、各プロジェクトとも着実に進行しています。それらの成果は国内事業へもフィードバックされ、よりグローバルな視点にたった「Smart & Safetyソリューション」が生まれつつあります。

当報告書は、社会の皆様と私たちとの、大切なコミュニケーションの窓口です。私たちがより良い企業グループとなるために、忌憚のないご意見・ご感想を頂戴できれば幸いです。

株式会社NTTファシリティーズ
代表取締役社長
一法師　淳

Theme 01

人と社会のコミュニケーション

私たちのアプローチ

持続可能な社会の実現に向け、先進のファシリティで挑む

「情報通信技術（ICT）」を活用し、様々な機械がネットワークでつながった、安心・快適・便利な日常―スマート化された社会の実現に向け、日々、技術革新が続いています。
私たちNTTファシリティーズは、オフィスや公的機関、生活インフラなど、社会を支えるファシリティの革新を通じ、社会の進歩に挑戦しています。

CSR 活動の柱

・安全でスマートな社会づくりへの貢献
・グローバルな事業展開による世界各地への貢献

2015年度の活動ハイライト

日常にあふれる様々な電気機器がインターネットでつながり、効率的に連携・制御しあう、IoT※1の浸透が世界各地で進んでいます。

NTTファシリティーズは、長らく培ってきたIT技術とファシリティ管理技術とを活用し、設備とIoTの融合に取り組んでいます。2015年度も、より高い次元で環境性・利便性・安全性を実現したビル管理ソリューションを開発・提供する一方、次世代の地域インフラの要となるスマートコミュニティを電力管理面で支えるCEMS※2の実証実験に積極的に参画するなど、多彩な成果を挙げることができました。これらを通じ、社会全体の進歩は勿論、インフラの再構築が進む被災地などの地方創生へと、貢献してゆきます。

※1 Internet of Things：モノのインターネット化
※2 Community Energy Management System：地域エネルギー・マネジメント・システム

2015年度、活動事例 01

IoT時代を先取りした、スマートなビル管理ソリューションの実現

NTT ファシリティーズは、「Smart & Safety」のスローガンのもと、「グリーン×IT ビル」ビジネスを推進してきました。IoT の浸透が加速する現在、その成果は多彩なソリューションに表れています。例えば経済性と効率性、安全性が重視されるオフィスビルにおいては、空調のエネルギー効率を改善する「SmartStream®」、照明の消費電力を削減する「FIT LC」、非常時の建物の安全度を可視化する「揺れモニ」などのIoT ソリューションを提供しています。さらにこれらを統合ビルマネジメントシステム「FITBEMS」により最適制御するとともに、FOC（ファシリティーズオペレーションセンタ）で遠隔操作することで、平時の省エネは勿論、非常時のBCPも両立することが可能です。今後もIoT を活用したソリューションやサービスをさらに推進し、サステナブルな社会の実現に貢献する、価値を生みだすファシリティマネジメントを実現していきます。

「効率化のためのICT」から「価値を生みだすIoT」へ

2015年度、活動事例 02

「北上市あじさい型スマートコミュニティ構想モデル事業」への参画

岩手県北上市が持続可能な都市のかたちとして掲げる「あじさい都市」を、環境・エネルギー面、防災面から具体化するための「北上市あじさい型スマートコミュニティ構想モデル事業」に当社は事業実施主体として参画しました。

このモデル事業では、東日本大震災時、エネルギーや社会インフラの脆弱性に直面した経験を踏まえて、自立・分散型のエネルギー供給システムを構築すると共に、自立的かつ持続可能な「スマートコミュニティ」を構築するものです。NTTファシリティーズは、分散電源が導入され防災拠点となる市内各所の公共施設を結ぶCEMS（地域エネルギー・マネジメント・システム）を構築し、一元的なエネルギーマネジメントを実施、災害時の市内の防災機能の面的な強化に寄与するとともに、平常時には電力需要のピーク制御や照明・空調の制御で環境負荷低減に貢献しています。また、2015年4月には北上新電力を設立し北上市所有のメガソーラー発電所の電力を購入することで、再生可能エネルギー比率の向上、電力の地産地消を実現しています。

北上市の取り組みは内外から注目を集めており、2016年3月には一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会が主催する「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靭化大賞）2016」において「先進エネルギー自治体大賞優良賞」に選ばれました。これらの成果をもとに、被災地は勿論、各地の地域創生へと貢献し続けます。

「あじさい型スマートコミュニティ」を支えるCEMSシステム

Theme 02

人と地球のコミュニケーション

私たちのアプローチ

ファシリティのグリーン化は、私たちの使命

地球温暖化の加速や、生物の多様性の減少 — 深刻化する環境問題を克服し、健やかな地球を次世代に残すことは、社会全体の責務です。
私たちNTT ファシリティーズは、「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」というめざす姿に即し、自社の、そして社会のグリーン化に取り組んでいます。

CSR 活動の柱

- 環境性能に優れた製品、サービスの実現
- 自社の環境負荷低減
- 環境リスク対策の徹底

2015年度の活動ハイライト

NTTファシリティーズは、経済活動を支える多彩な設備群の構築や運用、管理を担う企業として、その低炭素化を推進することを社会から期待されています。これをうけ、2015年度も、SmartStream®Xをはじめとする先進の省エネ機器や洗練された統合管理システムの開発・導入を積極的に推進し、お客様ひいては社会の低炭素化に貢献しました。

また、自社の環境負荷低減さらには環境リスク対策の徹底は環境重視経営の基礎であり、NTTファシリティーズは環境マネジメントシステムの導入をグループ全体で推進しつつ、継続的なPDCA活動を展開。2015年度も自社の低炭素化をはじめとする多面的な成果をおさめました。

2015年度、活動事例 01

洗練された制御技術で水冷式空調の消費エネルギーを削減するSmartStream®-X

現在、施設の低炭素化は、多くの企業が直面する経営課題となっています。その実施に向け大きなテーマとなるのが、主要なエネルギー消費源の一つである空調設備の省エネルギー化ですが、その実現には、設備投資の必要や導入施工時の業務への影響など、課題が多く存在します。

NTTファシリティーズでは、先進のICTを活用し、既存の空調設備はそのままに、空調機や熱源機、送水ポンプといった各種空調設備を統合・自律管理することで省エネルギーを実現する「SmartStream®」を開発、多くのお客様に導入してきました。さらに2016年1月には、その制御技術をさらに洗練し、機能を分割して段階的に導入することが可能な「SmartStream®-X」の販売を開始しました。具体的には、人工知能を持つ制御装置を①冷却水ポンプ、②2次ポンプ、③熱源機、④空調機の制御盤にそれぞれ組み込み、その制御装置が省エネルギー制御をおこないます。また、無線による通信機能により、各制御装置の情報をネットワークで共有させ、連携することで従来の中央一箇所の自律制御盤と同等の働きをします。これにより、より多様な施設への柔軟な導入が可能となりました。

「SmartStream®-X」構築イメージ

2015年度、活動事例 02

グループで推進する、自社の低炭素化

NTTファシリティーズでは、2020年を視野に環境保護の行動計画を「環境保護推進アクションプログラム」として取りまとめていますが、事業を通じての社会の環境負荷低減とともに、自社の低炭素化の取り組みも主要な責任の一つと定めグループで推進しています。

具体的には「自社のCO_2排出量の削減」を主要な取り組み項目に位置づけ、「オフィスビルにおける電力使用量削減」と「社用車の低公害車化」の2つのアプローチから実施しています。前者では、SLC(スマートライティングコントローラー)をはじめとする省エネ機器の設置をすすめるとともにクールビズ等の省エネ活動を実践しています。この結果、2015年度のオフィスでの電力使用量は15.3百万kWh、CO_2排出量で8,204t-CO_2(前年比300t-CO_2削減)と目標を達成しました。後者では、ハイブリッド車やクリーンディーゼル車等の低公害車の採用拡大やエコドライブの実践などで2015年度の社用車使用にともなうCO_2排出量は1,881t-CO_2(前年比112t-CO_2削減)となり目標を達成しました。

NTTファシリティーズグループ「環境テーマ」及び「環境保護アクションプログラム」の詳細は、詳細版CSR報告書「人と地球のコミュニケーション」をご覧ください。
http://www.ntt-f.co.jp/csr/sreport/envre2016/c/index.html

本社ビルでのSLCの採用

低公害車

再生可能エネルギーの活用推進

NTTファシリティーズでは、再生可能エネルギーを活用する社会の仕組みづくりを推進しています。中でも太陽光発電はその中核と位置づけています。山梨県北杜市で運営するF ソーラーリサーチパークでの太陽光発電モジュールなどの評価・検証や発電システム効率向上技術等の開発、及び全国に展開する自社メガソーラー発電所等の構築・運用で培った技術とノウハウを礎に太陽光発電の未来を担うシステムインテグレーターとして、最高峰の太陽光発電システムの提供に挑み続けています。

さらなる普及を後押しする、「Fソーラーパッケージ Mタイプ」の開発・販売

2012年の「再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT制度）」の開始以降、日本各地で太陽光発電所の構築が進んできましたが、さらなる構築促進に向け、より効率的な発電システムの普及が期待されています。このような問題意識に立ち、NTTファシリティーズが開発を続け、2016年6月より発売を開始した「Fソーラーパッケージ Mタイプ」は、東西方向にM（エム）の形となるように太陽電池アレイを配置する「M字型アレイ工法」を用いた太陽光発電システムで、敷地面積あたりの太陽電池パネル設置容量で20～40%、年間発電量で10～30%の向上を実現しました。

同システムは太陽電池パネル、架台、制御システムがユニット化されているため、設計の手間を大幅に簡略化できることも特徴です。NTTファシリティーズは同システムの普及を通じ、日本各地で再生可能エネルギーの活用を促進します。

パース図

現物写真

次世代を支える、太陽光発電システム構築ソリューション

MEGA SOLAR
メガソーラー

NTTファシリティーズの太陽光発電事業

全国に展開するメガソーラー発電所

NTTファシリティーズは、太陽光発電の発電事業者として、またシステムインテグレーターとして、日本における自然エネルギーの有効活用を推進します。

1	F北見太陽光発電所	1.1MW
2	ソーラーガーデン姫神	1.8MW
3	F土浦太陽光発電所	1.7MW
4	F土浦II太陽光発電所	2.3MW
5	F宮の郷太陽光発電所（東サイト）	1.1MW
6	F宮の郷太陽光発電所（西サイト）	2.5MW
7	F牛久太陽光発電所	4.0MW
8	F鹿嶋太陽光発電所	4.8MW
9	F北浦太陽光発電所	6.5MW
10	Fつくばみらい太陽光発電所	1.1MW
11	F小幡太陽光発電所	2.4MW
12	F阿見太陽光発電所	2.3MW
13	F日光太陽光発電所	2.5MW
14	F前橋太陽光発電所	4.9MW
15	F下秋間太陽光発電所	3.4MW
16	F佐倉太陽光発電所	2.0MW
17	Fあさひ太陽光発電所	5.2MW
18	F勝浦太陽光発電所	1.3MW
19	F神崎太陽光発電所	4.4MW
20	F白州太陽光発電所	1.6MW
21	F明野太陽光発電所	1.0MW
22	F大町太陽光発電所	1.6MW
23	F長和太陽光発電所	4.2MW
24	F岐阜御望太陽光発電所	2.0MW
25	F恵那中野方太陽光発電所	0.9MW
26	F恵那山岡太陽光発電所	1.1MW
27	F富士宮太陽光発電所	1.2MW
28	F岡崎II太陽光発電所	1.7MW
29	F岡崎III太陽光発電所	2.2MW
30	F瀬戸太陽光発電所	1.4MW
31	F常滑太陽光発電所（SUNてらす常滑）	1.1MW
32	F鈴鹿太陽光発電所	2.2MW
33	Fいなべ太陽光発電所	1.9MW
34	F伊賀太陽光発電所	1.3MW
35	F蒜野太陽光発電所	1.3MW
36	F甲賀太陽光発電所	1.8MW
37	F西宮太陽光発電所	2.0MW
38	F洲本太陽光発電所	1.7MW
39	F多可太陽光発電所	1.7MW
40	F海南太陽光発電所	1.9MW
41	F日高川太陽光発電所	1.2MW
42	F松江太陽光発電所	1.7MW
43	F浜田太陽光発電所	1.5MW
44	F益田太陽光発電所	1.4MW
45	F益田II太陽光発電所	1.1MW
46	F三原太陽光発電所	2.6MW
47	F尾道太陽光発電所	1.5MW
48	F尾道II太陽光発電所	1.4MW
49	F東広島太陽光発電所	1.2MW
50	F宮島太陽光発電所	2.1MW
51	F今治玉川太陽光発電所	2.5MW
52	F仁井田太陽光発電所	0.3MW
53	F高知浦戸太陽光発電所	2.4MW
54	F香南山北太陽光発電所	2.5MW
55	F香南野市太陽光発電所	1.5MW
56	F小城太陽光発電所	1.3MW
57	吉野ヶ里メガソーラー発電所	12.0MW
58	F琴海形上太陽光発電所	1.9MW
59	F南島原太陽光発電所	2.1MW
60	F多良木太陽光発電所	4.8MW
61	F臼杵太陽光発電所	2.4MW
62	F臼杵II太陽光発電所	1.4MW
63	F豊後高田太陽光発電所	1.9MW
64	F都城太陽光発電所	0.3MW
65	F南さつま太陽光発電所	2.4MW

Theme 03

安心・安全なコミュニケーション

私たちのアプローチ

生活インフラとして、24時間365日、支え続ける

高度情報化社会において、ファシリティはBCP対策の要 — 震災など自然災害が発生した際、施設では、安全性はもちろんのこと、安定的な稼働が維持されることも重要です。このためには、電力装置のみでなく情報通信設備もまた施設の中枢を担う機器と位置づけ、稼働を確保する必要があると、私たちNTTファシリティーズは考えます。

CSR 活動の柱

・情報セキュリティの徹底
・リスクマネジメント、BCP対策の強化

2015年度の活動ハイライト

近年、世界規模で、自然災害の激甚化・頻発化が問題視され、ライフラインの確保を目的とした生活インフラの刷新、堅牢化などが急がれています。私たちNTTファシリティーズはこの問題を重視し、自然災害に強くBCP（事業継続）に貢献するファシリティづくりを常に考えています。その成果は、公共施設をはじめとする社会の様々な場所で活きており、2015年度も内外で高く評価されました。

また、高度情報化社会の進歩に伴いファシリティのICT化が進む現在、私たちが日々扱うお客様情報は、個人情報は勿論のこと、その機密性・重要性を増しています。これを踏まえ、情報セキュリティを推進する体制を強化しています。

2015年度、活動事例 01

ジャパン・レジリエンス・アワードで数多く認められる私たちの成果

「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靭化大賞）」は、全国で展開されている次世代に向けたレジリエンス社会構築へ向けて、強靭な国づくり、地域づくり、人づくり、産業づくりに資する活動、技術開発、製品開発等に取り組んでいる企業・団体を表彰する制度です。2014年11月に創設された同制度では、国内各地の先進的な事例が集い、評価されていることから、内外の高い関心が注がれています。

NTTファシティーズの手がけた施設・プロジェクトは、同賞の設立以来、高い評価を受けています。2015年度には、設計を担当した品川シーズンテラスが「最優秀レジリエンス賞（エネルギー部門）」を受賞したことを筆頭に、みなとパーク芝浦が「優秀賞」、南あわじ市役所が「優良賞」を受賞するなど、多くの成果をあげることができました。なお、NTTファシリティーズが事業実施主体として参画している北上市は「北上市あじさい型スマートコミュニティ構想モデル事業」において先進エネルギー自治体大賞優良賞を受賞しています。これからも、100年以上にわたり培ってきたファシリティ管理の知見と先進のICT技術を駆使し、安心で安全な社会の実現に貢献してゆきます。

最優秀レジリエンス賞（エネルギー部門）を受賞した、品川シーズンテラス

ジャパン・レジリエンス・アワード2016　受賞団体の発表
http://www.resilience-jp.org/award/winners/

2015年度、活動事例 02

情報セキュリティ体制の継続的強化

NTTファシリティーズでは、社会のICT化を背景に私たちが扱うお客様情報の機密性・重要性を増していることを踏まえ、また、2015年7月に発生した顧客情報及び社員等個人情報がインターネット上のオンラインストレージ提供サイトに流出した件なども教訓に情報セキュリティの継続的な強化に向けた施策を積極的に推進しています。

具体的には、2015年10月に「情報セキュリティ推進室」を設置しNTTファシリティーズグループを横断する情報セキュリティ管理体制の強化を図るとともに、ハード、ソフト両面での対策を行っています。

ソフト面では、全社員に情報セキュリティ意識を啓発・徹底するためのeラーニングの実施（2016年1月）、情報セキュリティの基本やお客様情報取扱いのルール等を「情報セキュリティ・ハンドブック」として纏め社員に配付（2016年3月）等の取り組みを実施しました。

これらの取り組みを通じ、情報セキュリティインシデントの抑制を徹底すると同時に、万一の際の迅速な対応体制を整備し、あわせて一人ひとりの情報セキュリティ意識の醸成を継続することで、グループ一体で情報セキュリティを推進していきます。

情報セキュリティ・ハンドブック

Theme 04

チームNTTのコミュニケーション

私たちのアプローチ

社員を活かし、社員と共に歩む

社員は、企業と共に成長する貴重なパートナー ― 高齢化社会の進展やライフスタイルの多様化など、「共に歩むチーム」である社員への配慮のため、企業が対応すべき社会的な課題は多数あります。また、企業市民として地域コミュニティとの良好な関係づくりが求められる中、その担い手である社員と価値観を共有し、行動を促すことの重要性も、日々、増しています。

CSR 活動の柱

- 人権啓発の推進と企業倫理の確保
- 多様性の尊重と働きやすい職場づくり
- CS（お客様満足）の継続的向上
- 社会貢献活動の推進

2015年度の活動ハイライト

人権を尊重し多様性を活かす社会、そして、地域と企業とが調和した社会の実現は、世界共通の普遍的な課題として重みを増し続けています。日本をはじめとする先進国では、少子高齢化に対応した雇用制度の整備も急務です。これを踏まえ、NTTファシリティーズでは、人権啓発や多様性の尊重、働きやすい職場づくりといった、多彩な施策を展開しています。

2015年度は、女性活躍推進法の施行を目前に控え、女性がいきいきと活躍できる仕組みの整備、機会の提供に、日本社会の関心が高まりました。NTTファシリティーズも、多様性の尊重・女性活躍の促進をグループ横断で推進し、成果をあげました。

2015年度、活動事例 01

ダイバーシティ施策の積極的な推進

NTTファシリティーズは、かねてよりダイバーシティ推進のため、女性の活躍促進をはじめとする多様な施策へと積極的に取り組んできました。2015年8月には、その取り組みをさらに加速させるため総務人事部に「ダイバーシティ推進室」を設置。ダイバーシティ推進の目的である「一人ひとりのワークとライフをともに充実させ、一人ひとりが持てる能力を最大限に発揮できる会社になることで、多様性を強みに変えていける企業になる」を実現するため、より働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいます。

具体的には、ダイバーシティを尊重する企業文化・風土の醸成、育児や介護など時間的制約のある社員も含めた全ての社員が生産性高く働くワークライフバランスの推進、女性社員、障がいを持つ社員、介護を行う社員、外国籍社員等、様々な社員が多様性を活かして活躍できる仕組みづくりを実施しています。

NTTファシリティーズにおいて、2015年10月には、2011年に引き続き「次世代育成支援対策推進法」*に基づく認定マーク「くるみん」を取得しました。

今後も、ダイバーシティの推進とさらなるワークライフバランスの向上に努め、より働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいきます。

*次世代育成支援対策推進法：次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備を行う「次世代育成支援対策」を進めるため、国や地方公共団体による取り組みだけでなく、101人以上の労働者を雇用する事業主は「一般事業主行動計画」を策定し速やかに届け出なければならないとしています。

くるみんマーク

2015年度、活動事例 02

7人制ラグビー女子オリンピック候補選手を「シンボル社員」として採用

NTTファシリティーズでは、2015年5月、ダイバーシティ施策の推進やスポーツ振興を通じた社会貢献、社員の士気高揚を目的に、将来有望なスポーツ選手を採用する「シンボル社員」規定を制定しました。これをうけ2015年10月には、7人制ラグビー「セブンズ」の女子選手を2名、初のシンボル社員として採用及び内定しました。

「セブンズ」は、15人制のラグビーと同じフィールドを使い7人で行うラグビーです。男女とも2016年のリオデジャネイロオリンピックから正式競技となり、ワールドカップも４年に一度開催されています。今回採用した鈴木・中丸両選手は、同競技での2020年東京オリンピックの日本代表入りをめざす前途有望な選手です。今後とも、スポーツ選手のシンボル社員採用を通じ、スポーツ文化の育成に貢献する企業として、かつ、チームとしての連帯感をもった企業として、社会と共に歩んでゆきたいと思います。

鈴木実沙紀
（入社 2015年10月）
主な戦歴
2013.9
ラグビーワールドカップ2014アジア地区予選準優勝
2013.10
アジアパシフィック女子セブンズ準優勝
2015.3
ARFUアジア・パシフィック・クロスリージョナルセブンズ優勝
2015.3
香港女子セブンズ準優勝

中丸彩衣
（入社 2016年4月 ）
主な戦歴
2014.11
女子セブンズトライアウト合格
2015.3
ARFUアジア・パシフィック・クロスリージョナルセブンズ優勝

CSR経営の基盤

コーポレート・ガバナンス、CSR推進体制

コーポレート・ガバナンス

NTTファシリティーズでは、経営の健全性と透明性、お客様や社会からの信頼を維持し、企業価値を継続して高めていくため、コーポレート・ガバナンスを経営の重要課題と位置づけ、ガバナンス体制を構築しています。

取締役会と監査役

取締役会は取締役17名で構成され、原則、月1回開催する取締役会において、経営に関する重要事項を関係法規、経営判断の原則及び善良なる管理者の注意義務等に基づき決定するとともに、取締役の職務執行の相互牽制などを行っています。

監査役(3名)は、独立の立場から取締役の職務の執行を監査することにより社会的信頼に応える良質な企業統治体制を確立する責務を負っており、取締役会など重要な会議に出席するほか、会社の業務及び財産の状況に関する調査等を行っています。

経営会議と各種社内委員会

NTTファシリティーズでは、会社の重要事項について、原則として、社長、副社長、常勤取締役、各組織長及び監査役で構成する経営会議における審議を経たうえで決定しています。

また、会社経営・グループ経営に関する重要事項を課題ごとに議論し、適正な意思決定を行うための各種委員会を設置しています。

内部統制システム

NTTファシリティーズでは、NTTグループ全体の「内部統制システムの整備に関する基本方針」などに従い、同システムに必要な措置を実施することを取締役会で決議し、規程や体制などの整備に取り組んでいます。

また、財務報告に係る内部統制システムについても、内部監査などにより有効性を確認しています。

CSRマネジメント体制

NTTファシリティーズグループは、NTTグループのCSRテーマに即したCSR 重点活動項目を推進し社会に新たな価値を創造する一方、自社グループが社会に一層の責任を果たし続けるため、特に「企業倫理」「環境保護」「人権啓発」をCSRマネジメントの柱と位置づけています。具体的には、それぞれに社内委員会を設置し、企業ビジョンとの整合性を確保しつつ、基本方針・制度・基準・活動要領などを策定し、研修などの一体的な運営を行っています。これらをもとに、事業を通じた影響を正負両面で管理しています。

また、CSRマネジメントをグループ横断で推進する要としてCSR推進室を本社と各地域会社に設置し、本社CSR 推進室を中心に緊密な連携を図りながら、当グループの一体感を高め、横断的なCSR 活動を推進しています。

企業倫理・人権啓発・コンプライアンス

企業倫理・人権啓発推進体制

NTTファシリティーズでは、企業倫理の徹底と人権啓発の推進強化に向けた取り組みを審議・決定することを目的に、副社長を委員長とした企業倫理・人権啓発推進委員会を設置しています。同委員会は、原則として年2回定期開催するほか、社員から不正行為などの申告・相談があった事案について、事実関係の調査・究明に当たります。

相談窓口体制の充実

NTTファシリティーズでは、不正・不祥事の未然防止のみでなく、早期に問題の顕在化を図り迅速に対処することを目的に、企業倫理相談窓口として、「企業倫理ヘルプライン」を設置しています。また、NTTグループの横断的な窓口として弁護士による社外相談窓口を活用し、当グループ内のほか、取引先など社外からの相談も受けつけています。

これらの相談窓口の周知は、社内誌や社内HPなどのほか、「職場の悩み110番(セクハラ・パワハラ・人権問題等)」、「カウンセリングセンタ(人間関係、家庭、仕事等)」の相談窓口全ての連絡先を記載した携帯カードを作成し、全社員に配付しています。

企業倫理意識の向上施策

NTTファシリティーズでは、不正・不祥事、人権、セクハラ・パワハラ、情報流出、飲酒運転等、企業倫理に反する事象の撲滅と企業倫理の推進を目的に毎月21日を「企業倫理の日」と定め、各職場において企業倫理に関するディスカッションを行うなど、社員一人ひとりの企業倫理意識のさらなる向上を図っています。

さらに毎年、全社員が不正・不祥事、法令違反、人権問題などについて、わかりやすく理解できるよう具体的事例を挙げて、何が不正・不祥事などに当たるのかをクイズ形式で学ぶ「企業倫理等eラーニング」も実施しています。

企業倫理・人権啓発アンケートの継続実施

企業倫理や人権啓発に関わる施策の浸透状況や社員等の意識、風通しの良い風土などについて、アンケートにより現状を把握し、ファシリティーズグループにおける今後の企業倫理・人権啓発活動のさらなる徹底・意識向上に向けた取り組みとしてWebアンケートを継続的に実施しています。2015年度は、2016年3月にNTTファシリティーズグループ社員等を対象に実施しました(回答数:6,295人)。今後も、アンケートの結果を踏まえつつ、遵法かつ倫理的な事業慣行を企業グループ全体に維持・浸透していきます。

■ NTTファシリティーズのガバナンス体制

■ NTTファシリティーズグループ CSR推進体制

■ 各種相談窓口を記載した携帯カード

各種相談窓口　年間利用実績　23件

■ 企業倫理アンケート結果の一例

グローバルな事業で各地に貢献

経済のグローバル化をうけ、日本企業の活動も多国籍化を続けています。このような中、NTTファシリティーズも、その事業フィールドを世界各地に拡大し、世界のファシリティを先進の技術とノウハウで支えています。

2015年度、活動事例 01

ドイツにおけるスマートコミュニティ実証実験

NTTファシリティーズは、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）からの委託により、ドイツ連邦共和国のシュパイヤー市において、スマートコミュニティの実証事業に参画しています。同事業は、同市と同電力公社の全面協力のもと、2015年度から2017年度まで、太陽光発電で発電した電力を地産地消する「自己消費モデル」の確立をめざした技術を導入、実証するものです。

現在ドイツでは、すでに固定価格買取制度が事実上終了しているため、太陽光発電によって発電した電力を極力自家で消費し、電力会社に売電しないシステムを構築することが課題となっています。同プロジェクトには蓄電技術、蓄熱技術、HEMS*及びICT技術を有する多彩な日本企業が参画し、実際の生活環境の中での運転を通じて、太陽光発電の「自己消費モデル」の確立をめざしています。2016年5月には実証事業の設備が完成し、運転開始式典が行われました。

*Home Energy Management System

実験サイトでの運転開始式典の様子

2015年度、活動事例 02

米国データセンターにおける高電圧直流（HVDC）給電システムによる省エネ実証事業を開始

電気には、一般家庭のコンセントなどで使用される交流と、鉄道・通信・電子回路などで使用される直流があります。

また、この交流と直流の切り換えにはエネルギー損失をともないます。そのため、切り換え回数を少なくすることで、従来使用されている交流給電システムよりも省エネ効果を生む高電圧直流（HVDC）給電システムに、データセンター等大規模施設の省エネルギー化の観点から関心が集まっています。

NTTファシリティーズは、この仕組みを普及・展開していく目的で国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）からの委託により、米国テキサス大学オースチン校のTexas Advanced Computing CenterにHVDC給電システムを構築し2016年8月より省エネ実証事業を進めています。また、このシステムには太陽光発電システムが連系されており、より高い省エネルギー効果が期待されています。ICT分野における最大の市場を有する米国で、いち早く実証事業を行うことで、その省エネ性、信頼性、および保守・運用性等、HVDC給電システムの有効性を客観的データとして示し、HVDC給電システムの普及拡大を図り、データセンターの省エネ化に取り組みます。

実証システム概要図

実証システムの効率性を、DPPE（Data center Performance Per Energy）により評価し、交流給電システムと比較することで、HVDC給電システムの優位性を定量的に示します。

太陽光発電システムとHVDC給電システムを連系接続させ、HVDC整流装置の運転台数を制御することで、環境負荷低減とシステム効率向上を実現

高電圧直流で動作するサーバ、空調設備及び照明設備を導入し、省エネ効果を確認

HVDCシステムの詳細については、詳細版報告書「人と地球のコミュニケーション」をご覧ください。

第三者意見

法政大学大学院 人間社会研究科
教授
土肥 将敦 氏

一橋大学経済学部、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程を経て、2009年に高崎経済大学地域政策学部准教授。2014年より法政大学に移り、2016年より現職。商学博士。著書に「CSR経営－企業の社会的責任とステイクホルダー」共著、中央経済社）、「ソーシャル・イノベーションの創出と普及」（共著、NTT出版）などがある。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが控え、観光インバウンド政策も推進される中で、NTTファシリティーズをはじめとする社会インフラを担う企業への経済的・社会的な期待が、国内で急速に高まっている。また、国連では2030年に向けた「持続可能な開発のための目標（SDGs）」が昨年採択され、企業のイノベーションや創造性を活用した貢献への期待がグローバルレベルにおいても高まりをみせている。以下では、今年度の報告書から見て取れる同社のCSR活動に関する成果と今後への期待について、意見を述べたい。

新・企業ビジョンをうけ、事業活動及びCSR活動との関係性明示を期待したい

同社は2016年4月、企業ビジョンを再整理する中で「使命」を明文化し、3つの「行動指針（公明正大、誠心誠意、三現主義）」を掲げている。これらは同社がゴーイング・コンサーンとして、100年後も存続・発展し続けるための必要不可欠な経営哲学であり、CSRの基盤として高く評価したい。その意味では、冒頭部分（P1）において力強く謳われた「人権尊重、差別撤廃、腐敗防止を経営基盤とする」というメッセージは重要である。今後は、このメッセージと新・企業ビジョンとの関係性、ビジョンが構築された背景にある課題認識を社員へと浸透し、具体的な実践をグループ全体へと加速していって欲しい。そして、本報告書においてもその意義・成果が、定量的・定性的情報を交え開示されることを期待したい。

また、同社の事業活動は本業そのものが公共性・社会性が高いが故に、「事業を通じた社会への貢献」を強く志向していることが、かねてより報告書から見て取れる。この姿勢は上述SDGsのようなグローバルな期待にも合致しており、その成果を平易に伝える報告書づくりのさらなる加速を期待したい。同時に、新・企業ビジョンを踏まえると、倫理・遵法は勿論、社会に責任を果たす事業を徹底し、その意義や成果を伝えていくべきであろう。例えば、品川シーズンテラス（P4、P10）に象徴されるように、同社では、近隣に配慮しステークホルダーとの関係性にも新たな価値を創出する開発・整備を実施されていると聞くが、この切り口での説明も充実を期待したい。また、建物安全度判定システム「揺れモニ」（P4、P10）は公共施設などでBCP（事業継続計画）対策を支援できる画期的な技術であり、その普及・浸透は同社が社会に負う責務の増大を意味する。このように、新・企業ビジョンと各事業活動の「接点」を明快にする上でも、次年度以降は、「CSR中期経営計画」などを構築し、開示していくことが改善策となると思われる。

グリーンな社会の実現に向け、同社の強みを活かした社会的なイノベーションの加速を期待したい

同社は再生可能エネルギーを活用する社会づくりを促進しており、全国65カ所に広がる太陽光発電事業（P14）や各地でのスマートコミュニティ事業の展開は今後に大きな期待が持てる。一方で、電力自由化による価格競争などを踏まえると、その更なる成長に向け、これまでの枠組みにとらわれない新しい仕組みづくり、ステークホルダーとの関係性の構築による社会的なイノベーションが期待される。電力サービスの提供を契機として、BCP等の災害対策や復興支援などの地方自治体の「困りごとを総合的に支援する」ことができるのは、同社、そしてNTTグループの大きな強みであろう。最後に、グローバルな事業展開（P21）においても、NTTグループとしての連携を重視すると同時に、同社固有の特性や強みを活かしたCSR活動の展開と情報開示がより進んでいくことを強く期待したい。